

教育、学習支援業

調査結果：教育、学習支援業（国内の現状、課題、将来像、取組事例）

日本標準産業分類を基準とし区別しております。

現状

- Society 5.0の到来など、AI等の先端技術が、教育や学びの在り方に変革をもたらすことが考えられる。
- このような社会の大きな変革期にある中、子供たちは、情報や情報手段を主体的に選択し活用していくための基礎的な資質としての「情報活用能力」を身に付け、情報社会に対応していく力を備えることがますます重要となっている。

※「文部科学省 等」参照

将来像

GIGAスクールの将来像

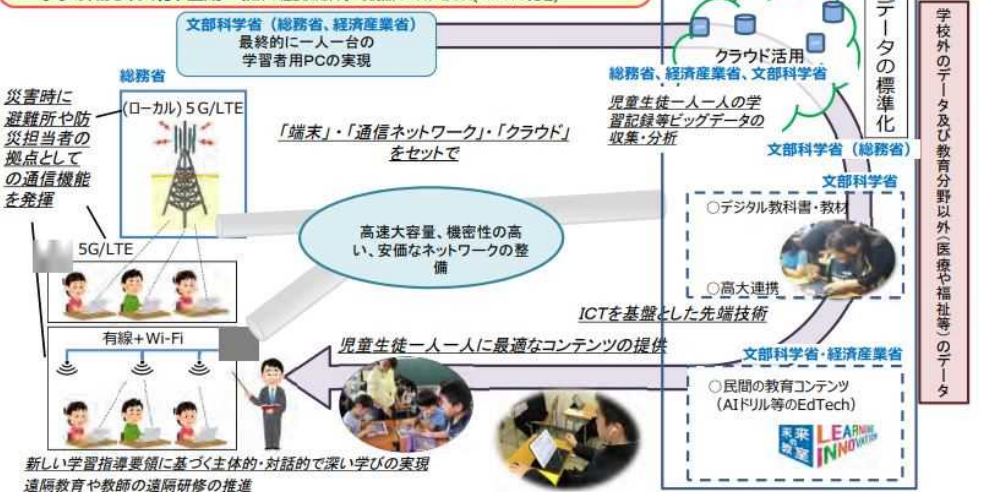
子供たち1人1人に個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境を

～内閣官房及び3省が連携して令和時代のスタンダードとして学校ICT環境を整備し、公正に個別最適化され、AIに代替されない創造性を育める学びの場の実現へ～

内閣官房IT総合戦略室
総務省
文部科学省
経済産業省

目指すべき次世代の学校・教育現場

- ✓ 学びにおける時間・距離などの制約を取り払う ～遠隔・オンライン教育の実施～
- ✓ 個別に最適で効果的な学びや支援 ～個々の子供の状況を客観的・継続的に把握・共有～
- ✓ プロジェクト型学習を通じて創造性を育む ～文理分断の脱却とPBLによるSTEAM教育の実現～
- ✓ 校務の効率化 ～学校における事務を迅速かつ便利、効率的に～
- ✓ 学びの知見の共有や生成 ～教師の経験知と科学的視点のベストミックス(EBPMの促進)～



※「文部科学省_学校情報化のこれまでの動きについて(2020年)」参照

課題

- 情報活用能力の育成
- 学校におけるICT環境整備
- 遠隔教育の推進
- 校務の情報化の推進
- 障がいのある子供たちの支援
- 青少年を有害情報から守るための取り組みの推進

※「文部科学省 等」参照

国内の取組事例



ICT

ICTを効果的に活用し、教え合い学び合う

「国語 新聞のとくちょうと作り方を知ろう」小学校4年生を対象に実施。本事業を通して、タブレットPC、PC教材の使用方法を学ぶことを目的としている。

学習の流れ(分)	主な学習活動と内容	ICT機器・教材、コンテンツ等
0	○前時の学習を思い出し、本時の学習課題をつかむ。 ○編集会議の内容と進め方について知る。 ・新聞の割り付けを完成させるためのポイント ・よりよい割り付け ・司会者が編集会議の司会を行い、意見を出し合う ・話し合いから、割り付けを比べたり変えたりして、よりよい新聞にしていること	・電子黒板 ・実物投影機能(実物に新聞を提示することで、具体的な割り付け例について示し、考えるためのモデルとする) ・タブレットPC ・協働学習支援ソフトウェア (画面の向きを変えられることや、考えながら簡単な操作で割り付けが変更されることなどを生かして、話し合いを進めていくように伝える)(写真1)
13	○編集会議を行い、よりよい割り付けになるように話し合う。 ・自分の割り付け案の発表 ・基にする割り付け案決め ・よりよい割り付けになるように話し合いながら編集作業 ・割り付けが完成したら、編集会議チェックシートで見落としがないかの確認	・タブレットPC ・協働学習支援ソフトウェア (発表する際には、タブレットPCの画面を縦向きに持ってグループのメンバーによく見えるようにさせる)(写真2)
30	○編集会議の報告を行い、本時のまとめをする。 ・司会者による編集会議の報告 ・次時の予告を聞く	・電子黒板 ・協働学習支援ソフトウェア ・教師用PC(各紙の新聞を提示する)(写真3)
45		



実施経緯

児童用のタブレットPC導入に先駆け、テスト運用

実施効果

一つのタブレットPCを囲んで、意見を出してそのつど変更し確かめてみるという活動により、自然と意見を交わし合い、話し合いながらよりよいものにしていくことができた。最初から最後まで、意欲的に取り組むことができた。考えや工夫が生かされた新聞ができあがり、児童は達成感を持つことができたと考える。

※「文部科学省_タブレットPCや電子黒板を活用した国語の授業「新聞を作ろう(2020年)」」参照

県内取組事例

宮崎県内の取組事例を紹介します。

(1) LMS※1を活用した学習管理。

LMS



LMS（学習管理システム）事例

事業者：K社
立ち位置：ベンダー

取組概要：

LMSで、子どもの習熟度、学習速度に応じて理解度を把握し、子ども一人ひとりに応じた最適な学習コンテンツを提供する。

※1 LMSとは、（学習管理システム：Learning Management System）とは、eラーニングの実施に必要な、学習教材の配信や成績などを統合して管理するシステムのこと。

スマコレ（LMS）

①解説動画の視聴

声と手書きの、わかりやすく丁寧な解説動画で英語をインプット。

②ライティング

ライティング課題に取り組むことで学んだことをアウトプット。
ライティングスペースでは、打ち込んだテキストの量が自動でカウント。

③添削結果の確認・リライト

添削とコメントを見ながらリライトが可能。

④管理（スマコレで、先生ができること）

「生徒の学習管理」「添付結果の印刷やデータ化」「ライティング課題の指定」など

取組を始めた背景：

世界のどこでも誰でも教育を受け、教育を発信できるシステムを創りたい、少子化が進む中で遠隔地の子供たちにも同じレベルの教育を受けさせたいという思い。

効果（成果）と今後の課題：

新型コロナウイルスの影響も重なり、大幅に業績をのばしている。

eラーニングの問題点である管理不足を改善し、学習者の成績・進捗管理、またコミュニティ機能などを組合せることにより、遠隔でも十分な成果が期待できる。

	L1	L2	L3	L4
英	○	○	○	○
国	○	○	○	○
数	○	○	○	○
理	○	○	○	○
社	○	○	○	○
地	○	○	○	○
理	○	○	○	○
他	○	○	○	○

	L1	L2	L3
英	○	○	○
国	○	○	○
数	○	○	○
理	○	○	○
社	○	○	○
地	○	○	○
理	○	○	○
他	○	○	○



タブレット スマホ PC

※「K社HP」参照